

分散剤としては、水溶性の高分子分散剤が好ましい。前記高分子分散剤としては、例えばにかわ、ゼラチン、カゼイン、アルブミン、アラビアゴム、トラガントゴム、サポニン、アルギン酸、アルギン酸プロピレングリコールエステル、アルギン酸トリエタノールアミン、アルギン酸アンモニウム、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、エチルヒドロキシセルロース、ポリビニルアルコール類、ポリビニルピロリドン類、ポリアクリル酸、アクリル酸 - アクリロニトリル共重合体、アクリル酸カリウム - アクリロニトリル共重合体、酢酸ビニル - アクリル酸エステル共重合体、アクリル酸 - アクリル酸エステル共重合体、スチレン - アクリル酸共重合体、スチレン - メタクリル酸共重合体、スチレン - メタクリル酸 - アクリル酸エステル共重合体、スチレン -     - メチルスチレン - アクリル酸共重合体、スチレン -     - メチルスチレン - アクリル

ル酸 - アクリル酸エステル共重合体、スチレン - マレイン酸共重合体、スチレン - 無水マレイン酸共重合体、ビニルナフタレン - アクリル酸共重合体、ビニルナフタレン - マレイン酸共重合体、酢酸ビニル - エチレン共重合体、酢酸ビニル - 脂肪酸ビニル - エチレン共重合体、酢酸ビニル - マレイン酸エステル共重合体、酢酸ビニル - クロトン酸共重合体、および酢酸ビニル - アクリル酸共重合体等の 1 種または 2 種以上が挙げられる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

分散剤の配合割合は、分散液の総量の 1 質量%以上であるのが好ましく、3 質量%以下であるのが好ましい。

( 湿潤剤 )

湿潤剤としては、例えばエチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、プロピレングリコール、ブチレングリコール、1, 2, 6 - ヘキサントリオール、チオグリコール、ヘキシレングリコール、グリセリン、トリメチロールエタン、トリメチロールプロパン、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ジエチレングリコールモノブチルエーテル、トリエチレングリコールモノメチルエーテル、トリエチレングリコールモノエチルエーテル、トリエチレングリコールモノブチルエーテル、尿素、2 - ピロリドン、N - メチル - 2 - ピロリドン、および 1, 3 - ジメチル - 2 - イミダゾリジン等の 1 種または 2 種以上が挙げられる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0050

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0050】

バインダ樹脂の配合割合は、水性のインクジェット用白インクの総量の 0 . 1 質量%以上であるのが好ましく、2 質量%以下であるのが好ましい。

( 塩基性物質 )

塩基性物質としては、先に例示したものの 1 種または 2 種以上が挙げられる。

塩基性物質の配合割合は、インクジェット用白インクの、塩基性物質を配合しない状態での pH、および目標とする pH などに応じて適宜の範囲とすることができる。